

苫小牧港が「釣り文化振興モデル港」に指定されました

苫小牧港管理組合

「釣り文化振興モデル港」は、国土交通省港湾局が、観光資源としての港湾における釣り施設や既存の防波堤等の利活用を進めており、地域の関係者による地域創生を目的とした釣り文化振興の取組が進められている港湾をモデル港として募集しているものです。

平成31年3月29日には全国で13港、令和2年8月3日には苫小牧港を含む3港が指定となり、現在は全国16港が指定されていますが、北海道では苫小牧港が初のモデル港となりました。

令和2年10月6日にはモデル港の指定証交付式も執り行われました。

釣り場開放箇所は、市街地から車で約30分のところにある東港区区内防波堤(苫小牧市字弁天)で、釣りの初心者でもサビキ釣りでサバやアブラコ等がよく釣れることから、家族で安心して楽しめる釣り場としても期待ができる場所です。

現在、釣り場開放に向けて、マナー教育の徹底や安全対策を十分に検討する必要があるため、公益財団法人日本釣振興会北海道地区支部や苫小牧港管理組合、行政機関や釣り団体等で構成する「苫小牧港海釣り施設協議会」で検討を重ねているところであり、来年度の釣り場開放に向けて取り組んで参ります。



令和2年10月6日 指定証交付式の様子
(左から佐々木秀郎苫小牧港管理組合専任副管理者、魚住聡北海道開発局港湾空港部長、岩倉博文苫小牧市長、北野宏明日本釣振興会北海道地区支部長)



令和2年9月27日 試験開放の様子



釣り場開放イメージ